

高齢者肺炎球菌予防接種をご希望の方へ

1. 肺炎球菌とは

肺炎球菌とは主に気道の分泌物に含まれる細菌で、唾液などを通じて飛沫感染し、気管支炎や肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こす細菌です。一般に細菌によって生じる肺炎のうち 1/4～1/3 は肺炎球菌が原因と考えられています。

2. 肺炎球菌ワクチンとは

肺炎球菌には 90 種類以上の型があり、定期接種で使われる「23 価肺炎球菌ワクチン」はそのうちの 23 種類の型の予防に効果があると言われています。この 23 種類の型は成人の重症肺炎球菌感染症の原因の約 7 割を占めるという研究結果があります。

予防接種を受けてから免疫ができるまでに 3 週間ほどかかり、1 回の接種で 5 年以上免疫が持続すると言われています。

3. 肺炎球菌ワクチンの副反応

報告の頻度	症状	備考
5%以上	接種部位の痛み、発赤、熱感、腫れ	いずれも軽度で通常 2～
1～5%	倦怠感 悪寒 発熱 筋肉痛 頭痛	3日で消失します。
ごくまれに起こる重いもの	アナフィラキシー症状 ^(注1) ギラバレー症候群	

(注1)：通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと

※ 接種後に気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師にご相談ください。

4. 接種時の注意

1) 一般的注意

①この説明書をよく読み、接種の必要性や副反応についてよく理解したうえで接種を受けてください。心配なことは福祉保健課や医師に相談してください。

②予診票は、接種をする医師にとって予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を接種医師に伝えてください。

2) 予防接種を受けることができない方

①明らかに発熱がある方

一般的に、体温が 37.5℃を超える場合を指します。

【裏面もご覧ください】

②急激に発症した重篤な病気にかかっていることが明らかな方

急激に発症した重い病気の場合は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性がある
るので、見合わせるのが原則です。

③このワクチンの成分によって、アナフィラキシーショックを起こしたことが明らかな方

④その他、医師が不適当な状態と判断した場合

上記①～④に入らなくても医師が接種不適当と判断した場合は接種できません。

3) 接種を受けるのに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患がある方

②過去にけいれんを起こしたことがある方

③過去に免疫不全と診断されたことがある方

④間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患がある方

⑤ワクチンの成分に対して、アレルギー症状を起こす恐れがある方

⑥過去にこのワクチン接種を受けたことがある方、又は、肺炎球菌ワクチン接種歴が不明な
方

4) 接種後の一般的注意事項

①接種後30分は、急な副反応がおこることがあります。医師とすぐに連絡をとれるように
しておきましょう。また、接種後1週間は体調に注意しましょう。

②入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。

③普段の生活をして差し支えありませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

5. 副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応がおこることがあります。また、予防接種と同時に、他の病気がた
またま重なって現れることがあります。

予防接種を受けたあと、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、じんましん、繰り返
す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などがあらわれたら、医師の診察を受けてください。

6. 予防接種における健康被害について

国が定める定期接種対象年齢の場合は、予防接種法に基づく救済制度が適用されます。それ以
外の年齢の場合は、(独)医薬品医療機器総合機構による救済制度が適用されます。ただし、そ
の健康被害が予防接種によるものかを審議し、認定された場合に補償を受けることができます。